ぶらりわが街宮沢界隈

(21) 中神の地名由来

中神の地名についての由来は、「新編武蔵風土紀稿」（＊①「宮沢の地名由来」に記載）の所載を要約すると、「当村は神社に上・中・下の宮があり、村の中央に位置する「熊野権現（神社）」を中の神と称し、中神と名がついた」とあります。また「此辺（このへん）大神・宮沢・中神三村相並んで、皆神社によって村の名とする」とあり、このように近村が競うかのように、神社に因（いん）で村名とした土地は珍しいのである。また、「熊野社より一丁程西北にある稲荷社を上の宮、熊野社より一丁程東にある山王社を下の宮と称する」と載せてあり、熊野神社の周辺が中神の最も早く開発された地域であった

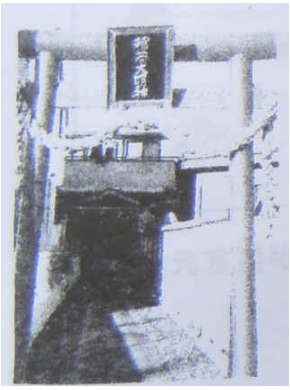
○ 「稲荷社」（いなりしゃ）―「西上稲荷」鎮座地（中神町1－11　明治年代現在地へ移転）　創建年代不詳　本殿は切妻、覆屋が設けられている、木製及び鉄造りの鳥居二基がある。

○ 「山王社」（さんのうしや）－「日枝（ひえ）神社」鎮座地（中神町2－1－12）　［祭神］　大山咋命（おおやまくいのみこと）　［例祭日］　本来は9月19日、現在は8月第3日曜日

［由緒］　通称「山王様」・「産土様」（うぶすなさま）とも呼ばれる。創建は不詳であるが、中神の鎮守「熊野神社」が創建される以前は、この神社が鎮守であった古社との伝えもある。江戸時代には、斜め西北にある「福厳寺」（ふくごんじ）の境内北から日枝神社北側に幅広い土手が築かれていて一続の広い土地であった。現在も信仰を集め、「熊野神社」の4月の春祈祷（きとう）、8月の例祭日に奉納される都指定無形民俗文化財の「中神の獅子舞」は、ここに奉納されてから「熊野神社」に向かうことになっている。（＊⑳「熊野神社と獅子舞（ししまい）・大公孫樹（おおいちょう）」に記載）　［社殿その他］　本殿は一間社流造で、拝殿はなし、コンクリート造の台輪鳥居一基、燈籠、他に境内に享保（きょうほ）13年（1728）造立の庚申塔（こうしんとう）一基がある。社殿は平成5年（1993）11月に建替えをした。

尚、中神の地名由来について、「武蔵野歴史地理」で高橋源一郎氏は「中神村には東上、西上と呼ぶ小字があり、中上から転じたのであろう」との一説を載せています。

○ 本村（ほんむら）部落―天保14年（1843）の「中神村絵地図（原茂（はらも）家所蔵）によれば、当時の中神村の集落は、西上、本村、田中、長塚、和田しかなく、その中心は、本村部落であった。「中久大尽」の旧邸（中野家村内第 1 の土地所有者）と原茂家（第2の土地所有者）の前から下る坂道「西上（にしうえ）坂」を下った先が本村部落であった。この他は、青柳段丘下にあって湧水に恵まれ北風を受けない絶好の居住地で、昔から10代以上も続く家系が多い。

○ 「和田橋」（都道59号線―奥多摩街道から多摩大橋へ下がる青柳段丘崖に架けられた近代的な陸橋で、昭和41年（1966）12月6日開通。旧和田部落の東端にかかるので和田橋と呼ぶ。近くに多摩川、対岸の加住丘陵、遠くに大山連峰から霊峰富士山を、また西に奥多摩の山々を眺めることができ，特に夕日が山々にかくれる頃の四季の変化は格別です。

記　　防犯宮沢支部会計　西山　禎一